

	<p>2016年 5月15日 第114号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail: mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	--

どんな生き物がやってくる？

トンボ池の浅い 棚田に春が来た



写真上は、棚田の浅いところにいたツグミです。水浴びか、水を飲みに来たのでしょうか。

庭先に野鳥を呼ぶためにバードバスを置いている人もいます。

野鳥もこういう浅い水場にやってくるのですね。



いっぱいいたオタマジャクシ は全滅した

深い池はどこにでもありますが、ヤゴやオタマジャクシばかりでなく、いろいろな生き物が利用できる浅い水辺～湿地はありません。このトンボ池には毎年ヒキガエルが来て産卵

するものの、オタマジャクシを見ないまま終わってしまうことがほとんどでした。カルガモの餌になったようです。カルガモはオタマジャクシもあさっていました。

今年は工事中だったので、カルガモは飛来しませんでした。カエルの卵はオタマジャクシになっていちばん浅い棚田に移動していました。前ページの写真は4月23日の水際にいたオタマジャクシの一群、他に水草の茂みの中にも群れていました。4月30日に見に行ったら、オタマジャクシはかなり大きくなっていましたが、数が半減していました。そして、5月4日、オタマジャクシは1匹も見当たりませんでした。まだ脚も出ていなかったのも、カエルになって上陸したはずがなく、何かに喰われたのでしょう。多分ザリガニ。

大人のカエルはミミズなど生きた小動物を食べます。カエルはたくさん卵を産みますが、カエルになるまでの間、カルガモ、ザリガニ、サギ、それに子ども達等、周囲は天敵だらけ。無事豆ガエルになって上陸しても、今度はムクドリ等が片っ端から食べていきます。生き残って大人のカエルになれるのはほんのわずかだそうです。

ザリガニとどう対決するか

右の写真はザリガニが開けた穴です。暖かくなって棚田1と棚田2に穴がいくつも開けられ、浅い方の棚田に水が漏れ出ています。泥深く、ザリガニには絶好の環境です。ザリガニトラップを仕掛けても、穴を塞いでもすぐに別の穴が開けられ、生やさしい相手ではありません。ザリガニ捕獲に明け暮れるのは嫌です。ザリガニがすみにくい環境を作り出していきます。



トンボ池の植物

セリ

公園のコンクリート池だった頃には目に付きませんでした。が、ビオトープ池ができると、池の周りの土にセリが生えてきました。ありふれた植物ですが、どこにでもあるわけではありません。このあたりが田んぼだった頃、セリがたくさん生えていて、セリを摘みに来たそうです。だからここに昔あった水際の植物で、トンボ池の日当たりのよい浅い水際に生えています。ギンヤンマは水の中の植物等に産卵しますが、このようなや



わらかい水草はザリガニに喰われてしまうので、水の中にセリが生えているかどうか指標にな

ります。ありふれていますが、一番大事にしたいのがセリです。



ウキヤガラ

ススキのような植物はカヤツリグサの仲間のウキヤガラです。昨年池が干上がると盛大に育ち、棚田1, 2に水が溜まると、オスのトンボが草丈の高いウキヤガラに止まって縄張りを見張り、別のオスが来ると追い払って（逆に追い払われて）いました。なぜウキヤガラがあるかですが、2005年水草のないトンボ池に、板橋区に自生している水草を植えようと、荒川河川敷の水路（溝）に生えていた植物を採集して植えたからです。何種類かの植物が混じってい

たのですが、最終的に残ったのがウキヤガラでした。

水草のこと 水草には、藻のように根は水底にあって水の中で育つ沈水植物や、スイレンのように葉が水面に浮かぶ浮葉植物、ウキクサのように根も水中に浮いている浮水植物、それからウキヤガラのように根は水底にあって葉や茎は水面から出ている抽水植物があります。板橋に昔あった藻やスイレンのような水草は区内ではどこにもありません。区内の荒川でもこのような水草が自生する環境はほとんどないと思われます。最近調べたわけではありませんが、河川敷のビオトープにもザリガニが多く、水草が育つ環境がありません。ウキヤガラのような水面から茎を伸ばす水草も荒川の本流より、河川敷の溝の湿ったところに生えていました。溝にもザリガニがいるので、ガマのようなやわらかい水草は育たないでしょう。

イ（写真右）

畳表になるイグサのこと。荒川で採取したのですが、固くて丈夫、日陰でもOK。橋の傍に大きな株がいくつかあります。ザリガニも素通りです。



林縁の植物

3月～4月には、トンボ池の山側にムラサキケマンがたくさん咲きました。山側のフェンスの向こう側には、ニリンソウとジロボウエンゴサクが毎年咲きます。そのうち、トンボ池側にも出てくるかもしれません。

日当たりのよいフェンス際の植物

セリ、ヨモギ、カキドオシ、ドクダミ、ノゲシ、ハルジオオン、ホトケノザ、イノコズチ、ヤブジラミ、ヒメオドリコソウ、イチゴツナギ？、カモジグサなどのイネ科植物、等々が生えています。当初、ツル植物（クズとヤブガラシ）以外は刈らずにそのままにする方針でしたが、水路から流れ込む湧水を見に来られる方が多いので、湧水の流入口付近を少し刈ったり、在来の野草が育つよう外来種を抜き取ったりしてもいいかもしれません。いたるところ外来種や園芸種が生えているご時世に、在来種以外を排除するというのは、国粋主義者みたいですが、この場所だけでも昔からここにすんでいた植物に限定してもよいのではないのでしょうか。

トンボ池は、自分でやってくる動植物が生きていく場所です。他の場所にいた生き物を放さないこと、日本産であっても他の場所に生えていた植物をここに入れないこと、中の動植物を持ち出さないことを原則にしています。例外として会では小さな生き物（トンボのヤゴなど）を脅かすザリガニなどの外来種を駆除しています（坂本 郁子）。

観察と活動の記録(2015年11月～2016年4月)

11月21日(土) トンボ池作業

トンボ池に使用する土を水路から掘り出し土袋に入れて搬入。湧水はわずかで、池までやっと届く程度。この後、付近住民が池に水道水を入れたらしく、満水になっていた。

11月28日(土) トンボ池 整備工事の予定を掲示。棚田1にヒメダカ、小魚、エビ多数放流されていた。ザリガニのみ捕獲(わずか)

ミニトンボ池ザリガニ捕獲大2, 中13, 小46

12月9日(水) トンボ池 ほとんど干上がった状態。枯れ草を刈る。棚田1にエビの死骸多数、棚田2に魚死骸2匹。棚田1にいた多数のヒメダカと小魚は回収され持ち帰られたようだ。

12月19日(土) トンボ池 水研クリエイト(株)により大改修。棚田3, 4、浸透池土を掘り畦等に使用、踏み固め、枝を切って畦の補強。会員も頑張る。

12月26日(土) トンボ池作業 枯れ枝と大量の掘り起こしたショウブの根の片付け

1月16日(土) トンボ池

枯れ枝の片付け、ショウブの根の片付け、

地面に転がした枝は分解が進み、甲虫の幼虫が生息、スズメバチが越冬していた。

1月23日(土) バッタ広場手入れ

8月から手を入れていなかったため、ササは1m程に伸び、葉を落としたクズのツルが這い、センダングサの種がばらばら落ちる状態。ガガイモ種見当たらず。ひたすらササを刈る。クズはツルの地際を掘り取る。バッタ広場の一角を藪のままに残し、他は刈り取る方針(生垣と広場の木は1m位で切る)。

2月3日(水) 浮間公園水鳥の観察(多い順)

ホシハジロ、ユリカモメ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、オオバン、オナガガモ、バン、カルガモ、アオサギ、ゴイサギ、ダイサギ、ミシシッピーアカミミガメ

2月21日(土) バッタ広場作業 ササ繁茂、ツマグロオオヨコバイ越冬、オオカマキリ卵、茎

に生み付けられたマイマイガの卵(?)

2月28日(土) バッタ広場ササ刈り、一部を残して草も木も刈る。トンボ池にカエルの卵

3月9日(水) 湧水の導水管漏水の修理がされ、湧水は池に到達し棚田1, 2, 3, 5にたまっていた。ザリガニ巣穴も多数有り。

3月19日(土)、20日(日) 梅まつりに出展

3月26日(土) バッタ広場 一部を残して草も木も刈る。

クビキリギリス、ツマグロオオヨコバイ(写真右)、アオオサムシ。枯れ草の中から現れた越冬昆虫たちはいずれもみずみずしいきれいな個体で、しばし感動して見とれる。「冬の寒さを耐えてボロボロ」というのは、私たちの勝手なイメージだったかも。

トンボ池は水が深く、水際に除去しきれなかったショウブがかなり残っていてしっかり芽を出していた。午後ツグミが水浴び(水飲み)に来た。



4月9日(土) トンボ池と水路の調査

3月26日調査時以降、降雨があったが水位の上昇は認められなかった。湧水量は12リットル/分。サワガニ。ヒゲナガガ?、ニリンソウとジロボウエンゴサク咲く。水路際の斜面林が一部伐採されていた。池ではオタマジャクシ多数、クビキリギリス、ザリガニ1。ショウブ徹底抜き取り。低くなってしまった堰に土を入れて嵩上げした。

4月13日(木) トンボ池

棚田1にザリガニ多数走る。ザリガニトラップ3+塩ビ管トラップ1設置。

4月16日(土) トンボ池 池に人が入った形跡有り。水濁っている。棚田1のトラップ回収0(持ち去られた可能性大)。塩ビ管にザリガニ大1, 別のトラップに1, 他に網で3、トラップ再設置で4匹回収。ショウブ抜き取り。

ミニトンボ池 ザリガニ稚エビのみ2, 3匹。中~大はいない。底泥はヘドロ臭。

湧水量の減少か?、かつてのトンボが来る池を取り戻すには新しい取り組みが必要と思われる。

バッタ広場ササ刈り セイタカアワダチソウ、アイビー抜き取り(かなり広範囲に広がっている)、ササを刈ったところにオギの新芽。カラスノエンドウが多い。ツチイナゴ、アオオサムシ、(ヒメ) ジュウジナガカメムシ、ケバエ、

4月23日(土) 総会

総会后、トンボ池と水路を調査

湧水量: 10リットル/分、水路に溜った落ち葉で流れがいくらか悪くなり、地盤の低い下流側にわずかにしみ出していた。ウキヤガラが増え、気温も上昇して蒸発量も増え、水位は少し低下。ザリガニトラップとれず。

板橋の水辺に住む昆虫たち

低地に広がる水田、山際には田に水を供給する水路が走り、アシが生えるため池が所々にあり、湧水も多かった。1960年代以前の板橋区の風景である。荒川河川敷にも水溜りが多く、大雨があれば広がり、日照り力囁けば干上がっていた。戸田橋の橋下には冬も水が溜まっている水田があ

った。こんな風景は全て消えてしまった。ヤマカガシ、トウキョウダルマガエル、タナゴ類、マルタニシ（大型の種で食用になる、徳丸ヶ原の水田に生息していた）、ミズスマシ、ハグロトンボ

など1960年代の板橋区には多かった生き物も全て消えてしまった。

今の板橋区に残る水辺はプールや公園の池などコンクリートで固めたものと石神井川などのコンクリートで固めた川、自然の水辺に似せて造ったトンボ池、湧水が数箇所と荒川の河川敷である。こんな貧弱な水辺でも生き残っている昆虫はいる。今の板橋区に住んでいる水生昆虫をいくつか記してみる。

アジアイトトンボ

イトトンボ類は皆小型で弱々しいトンボだが、本種は中でも小さい方である。ただし弱々しくてもトンボ類、獰猛な肉食昆虫である。ただし犠牲になるのはもっと小さく弱々しい虫である。アジアイトトンボの特徴は移動力が大きいこと。荒川河川敷や浮間池には本種と共にクロイトトンボ、アオモンイトトンボが普通に見られるが、この2種は水辺から離れた場所で私は見たことがない。イトトンボ類は種の見分け（同定）が難しいが、水辺から離れた空き地の草むらでイトトンボを見つけたら、「これはアジアイトトンボ」と言えば大体正解である。板橋区全域で見

られ、庭の金魚池にも産卵していた種だが、市街地では近年私は見ていない。

オオアイトトンボ

大型のイトトンボで体は緑色に輝いている。大きい割には移動性は弱いようだ。ヤゴが羽化し成虫になるのは初夏、水辺の傍の森で夏を過ごし、秋になると水辺に戻り産卵する。水上に茂る木の枝の先に卵を産みつける。時間は夕方から夜、赤塚のトンボ池で夜11時頃産卵をしているのを見たことがある。小さな池でもオオアイトトンボのヤゴは育つが、水の上に張り出した枝がなければならない。夏を過ごす森が直ぐそばにあることも本種生息の必要条件である。現在の板橋区でこの条件を満たしているのはたぶん赤塚溜池周辺と浮間公園付近だけであろう。

1960年代、溜池上の雑木林には無数のオオアイトトンボが飛んでいた。1999年同じ場所でオオアイトトンボを見つけた。40年の間に付近は激変したが、雑木林だけは残っていた。ほんの数匹だけだが、残されていた雑木林のおかげで生き延びること出来たのであろう。うれしい再会であった。

2001年発行の「板橋区昆虫類等実態調査（3）報告書」に上の記録がアオイトトンボとして載って

いるが、これはオオアイトトンボが正しい。2009年発行の「板橋区昆虫類等実態調査（4）報告書」

にも赤塚城址産のアオイトトンボが記録されているがこれも多分オオアイトであろう。2001年舟渡のアオイトの記録に関しては私は標本の確認をしていないので不明。目黒の自然教育園と明治神宮でアオイトが記録されているのでどちらとも言えない。オオアイトの東京都区部の記録は皇居と目黒自然教育園だけである。

オニヤンマ

小さなイトトンボの次は日本で一番大きいトンボ、オニヤンマである。松月院から赤塚溜池へ行く途中、竹やぶの坂道を下り不動の滝に出る。この竹やぶの中の道はいつもオニヤンマが行ったり来たりする道だった。赤塚へ行けば必ず会うトンボがオニヤンマだった。

現在も少ないながら溜池付近に生息している。小道を低く行き来する姿は滅多に見られないが、城址上の草原高く飛ぶ姿はよく見られる。夜の雑木林の中で寝ている姿もたまに見つかる。

ヤゴも見つかっている。美術館前のトンボ池の水路、乗蓮寺下のトンボ池に繋がるコンクリート側溝で、水源は湧水である。現在は無くなってしまったが、不動の滝南側階段脇の竹林中の湧

水でも羽化直後の成虫を見ている。小さな水溜まりのような場所で餌はあるのかと心配になるような所だった。大きなトンボだが育つ場所は狭い。親になるまで5年もかかるという。移動性は強く時たま町の中でも見つかる。赤塚のオニヤンマも遠くから飛んできたものが多いと推測される。現在の板橋区には本種の個体群を長期に亘って維持できる環境は無い。板橋の隣、和光市白子大坂の湧水からの小流では本種のヤゴが今でも多数見られる。赤塚のオニヤンマの出身地になつているのではと思われる。板橋区付近の本種は湧水頼み昆虫だと言ってよさそうだ。

ヤマトクロスジヘビトンボ

ヘビトンボ類は大型の肉食性昆虫だが目に触れる機会は少ない。子供の頃赤塚でヘビトンボを見た記憶は無い。2000年5月19日、郷土資料館の灯火に來たものを採集したのが初である。成虫は夜行性が強いようで、灯火以外で見るのは難しいようだ。飛び方は不器用で移動力は低そうだ。動きは鈍いが、下手に掴むと噛み付かれる。柔軟な体は柔軟な動きを可能にする。カマキリやジョウカイボンなど捕食性の昆虫は柔軟な体を持つことが多い。

疍の葉「孫太郎虫」（これを知っていれば老人である）の正体はヘビトンボ類の幼虫である。この幼虫は美術館前トンボ池の水路で見つがっている。数年前まではやや普通に見られたが、現在はやや心配。ヘビトンボ類の幼虫は山際の水量のある清流に住むものが多いが、本種は小さな流れにも生息している。本種幼虫は大気からの直接呼吸が出来るので、水枯れにも耐えることが出来るかららしい。

越冬するのは幼虫である。晩秋、水中から這い出た幼虫は水路傍の石や倒木下に潜り込み、巢穴（越冬嵩）を作る。越冬中は湿っていれば水が無くても良い。大きさ（齢数）はまちまちである。オニヤンマ同様数年がかりで育つようだ。

東京都区部の本種の記録は確か目黒自然教育園のみ（文献行方不明中）、埼玉県でも狭山湖の記録はあるが、東部低地帯の記録はないようだ。和光市白子大坂の森で撮影された本種の写真を見せて頂いたことがあるが、現在も生息しているか確認が必要であろう。赤塚でもトンボ池水路補修工事の影響が心配、要再確認である。

セグロトビケラ

赤塚溜池と練馬区光が丘公園で私が記録したのが東京都初記録になっている。各1例のみで追加記録が出ない。東京付近の平野部では湧水などから出來た池沼で幼虫が育つと推測される。関東地方山地では普通に見られ、2000m 峰山頂の灯火採集でも得られている。本種が多い奥秩父山地には湖沼は全く無く、幼虫は溪流で育っているのであろう。平野部と山地では違う暮らしをしているのであろうか。

ハイロゲンゴロウ

板橋区では昔も今も普通である。多くの水生昆虫が絶滅してしまい、今や板橋区に生息する最も大型の水生甲虫になった。60年ほど前の板橋区には今や全国レベルの絶滅危惧種になってしまったマルガタゲンゴウやシャープゲンゴロウモドキなどが生息していた。もう確認のしようがないが赤塚溜池産らしきゲンゴロウの標本も見たことがある。ゲンゴロウ・ガムシ類は丸っこい体形だがかなりの距離を飛ぶことができる。移動力も諸刃の剣、生息適地が多い時代は素早く分布拡大が出来るが、生息適地が減少すれば無駄な移動が増え、絶滅への道を急速に辿ることになる。ハイロゲンゴロウは学校のプールでも見つがっている。

学校プールで繁殖できるならば移動力は味方になるはずだ。本種が勢力を維持している真の理由はまだ？である。あんなにいたミズスマシは何でいなくなってしまったのだろう。（釣巻岳人）

活動のお知らせ

運営委員会：5月28日（土）12：30～13：30

6月25日（土）12：30～13：30

総会に向けて、次年度の活動計画を相談します。

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：7月16日（土）12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

活動予定いろいろ

- 1 赤塚ピオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の環境整備と観察。
集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）

状況を見ながら手入れ内容を検討します。作業は1時間程度として、時間が許せば引き続き周辺や他のピオトープの観察をします。関心のある方は事務局にご連絡下さい。

5月28日（土）10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

6月11日（土）10：00～11：30 バッタ広場植物調査

6月18日（土）10：00～12：00 11：00～12：00 観察会

6月25日（土）10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

7月16日（土）10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

- 2 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りなど）

6月4日（土）、7月2日（土）いずれも10：00～11：30

日暮台公園前集合

●ピオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。